

## 生物多様性の保全・再生に貢献！

### 一筑波技術研究所内に地域性在来植物ビオトープ「つくば再生の里」を造成-

戸田建設(株)(社長:今井 雅則)は、茨城県つくば市の技術研究所内に地域性在来植物<sup>※1</sup> ビオトープ「つくば再生の里」を造成するとともに、その育成状況を1年間モニタリングすることで、生態系の形成が行われたことを確認しました。

近年は、多くの企業で建物周辺のスペースを緑化し、生物多様性の保全・再生に取り組むケースがみられます。当社は、地域性在来植物のみを用いた緑地の整備とその維持管理のノウハウを蓄積することで、生物多様性に関するお客様の様々なニーズにお応えいたします。

※1 地域性在来植物:緑化する地域に由来する在来植物のこと。



写真1 つくば再生の里 外観 (撮影時期 2019年8月)

写真2 飛来した主な生物

#### 【整備概要】

住 所 : 茨城県つくば市要 315  
戸田建設筑波技術研究所内  
竣 工 : 2018年11月  
面 積 : 約 200㎡ (うち水域: 約 35㎡)

#### 植栽樹種 :

(高木植物) エノキ、エゴノキ、シラカシ、ウワミズザクラ、ホオノキ等  
(低木植物) ムラサキシキブ、イボタノキ、ガマズミ等  
(地被植物) マンリョウ、クサイチゴ、テイカカズラ等  
(湿性植物) イヌホタルイ、セリ、ケキツネノボタン等

### 1. 造成の背景

緑地やビオトープの整備では、生物多様性の観点から園芸種・外来種を避け、自生種や自生種地域性在来植物を使用することが望ましく、東京都環境局が示す在来種選定ガイドライン<sup>※2</sup> や(一社)日本建設業連合会の行動指針<sup>※3</sup> 等において推奨されています。

このような状況の中、当社が生物多様性の保全・再生に貢献するためには、自生種や地域性在来植物の維持管理に関するノウハウを蓄積することが重要と考え、自社の敷地内にビオトープを造成しました。

※2 東京都環境局 在来種選定ガイドライン

[https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/green/green\\_biodiv/ns\\_guidelines.html](https://www.kankyo.metro.tokyo.lg.jp/nature/green/green_biodiv/ns_guidelines.html)

※3 日建連 生物多様性行動指針 <https://www.nikkenren.com/publication/detail.html?ci=270>

## 2. 「つくば再生の里」の特徴

当ビオトープは、多様な生物を生育・誘引する生息環境としての役割に加え、以下のような特徴があります。

- ①すべての植物を周辺地域の水田や樹林地から採取・調達した、地域性在来植物のみを利用したビオトープである。
- ②地域性在来植物のみを用いた緑化であることを示すトレーサビリティ認定※4を取得。
- ③樹種名や識別記号、採取地を記載した独自の植栽プレートにより、調達した樹木や植物を管理。
- ④樹木や植物にプレートを設置することで、正しく植物名と特徴を覚えることができ、周辺地域の小学生へ環境教育や啓発活動へつなげることが可能。
- ⑤植栽した植物の育成状況を把握するため、定期的なモニタリングを実施し、維持管理状況と関連付けたデータを蓄積。

※4 地域性在来植物トレーサビリティ認定：

一般社団法人 生物多様性協会が主催するトレーサビリティ認定制度。在来植物の採取地と採取から育成出荷までの履歴を認定することにより、地域性在来植物による適正な緑化が推進されることを認定する。認定番号と認定日、植栽の数は以下の通り。

認定団体:一般社団法人 生物多様性保全協会  
認定番号:製第 20190007 号  
認定日 :2019 年 5 月 13 日

製品数 : 118 種 136 産地  
内訳 ( )  
・ポット苗 : 86 種類  
・高木山取り: 14 種類  
・播種 : 18 種類



例



植栽プレートの例 材質：ステンレス製



植栽プレートの設置例

写真 3. 植栽プレート

## 3. 今後の展開

当ビオトープは、造成後1年が経過し、順調に育成していることが観察されました。様々な昆虫や鳥類の訪れも確認されており、動植物の生育環境として新たな生態系の形成が期待できます。

当社は、当ビオトープの整備や維持管理で得られたノウハウと蓄積したデータを新たなビオトープ計画に活用することで、生物多様性の保全・再生に努め、お客様のニーズにお応えしていきます。